

狭山茶の魅力、若者にPR

入間市 中村勝雄さん、石尾絵莉さん

女性の観点で新商品をネット販売



中村さん（左）と娘の石尾絵莉さん

【埼玉】入間市は狭山茶発祥の地。同市で7代（69）は2018年から

続く茶園の中村勝雄さん

妻と娘夫婦らとともに、「狭山茶農家 ささら屋」として新たな経営を始めた。

これまでの生葉出荷に加え、インターネット販売を開始。お茶の古いイメージを払拭しようと、若者にも興味を持ってもらえるようにお茶の味や商品名・パッケージを工夫した。

商品名は「かえで」や「ひより」など女性の名前シリーズを採用。販売・デザインを担当する娘の石尾絵莉さんは「同じ名前の人へのプレゼント用に購入する人もいる。人気もあって気に入ってもらえてうれしいと話す。

お茶は独自のブレンドでうまみを引き出し、渋みを抑えた飲みやすさが

特長。中村さんは「夜寝る前や仕事の合間の休憩時間など、ほっと一息つきたいときに楽しんでもらいたい」と話す。手軽にお茶を楽しめるようにティーバッグや一煎袋など約27種類を販売。かわいらしいデザインや購入しやすい価格設定は消費者に好評だ。

また、お茶の摘み取りと野菜収穫が同時に楽しめる体験会も開いており、毎年参加者が100人を超えるほど盛況。中村さんは「多くの人に狭山茶を知ってもらおう取り組みを積極的に行いたい」と話す。今後は「自宅の一角に直売コーナーを設けて、多くの消費者に狭山茶の魅力を伝えていきたい」と笑顔で語る。